

林病院内断酒例会発足

45周年記念号

支え合う仲間

第7号

発行
林病院OB会

発行責任者

浅口市金光町八重190-1
加賀純雄
TEL090-9410-3593

院内例会発足45周年を迎えて

林病院 医師 前田 勝子

このたび、岡山県断酒新生会林病院院内例会が発足して45周年を迎えられたことにお祝い申し上げますと同時に感謝を申し上げます。昭和51年南雲與志郎院長は当院へ就任後まもなく、当時岡山県断酒新生会初代会長だった山方辰三郎ご夫妻に、当院のアルコール依存症の治療への協力をお願いに上がり、会長ご夫妻のご尽力により昭和52年9月26日に当院の院内例会が発足しました。

それから4年後、昭和56年に当院を退院して断酒会につながった単身の会員さまが中心になりOB会が発足しました。昭和61年にはアルコール依存症治療棟が開設、まもなくアルコール依存症の患者さんの回復を支援するために、よりよい治療プログラムを提供しようと模索を続けてまいりましたが、回復には院内断酒例会、特にOB会はなくてはならない存在です。アルコールは、止めようと決心してもなかなか止めれない難儀な薬物です。一人で止めようと挑戦してもひとたまりもなくアルコールに飲み込まれてしまします。でも仲間がいれば百人力です。多くの患者さんが、断酒会員・OB会員の皆さまとの出会いが、断酒のきっかけになり、互いに支え合い断酒に向けた挑戦を継続されています。

当院の院内断酒例会は、断酒会員・OB会員の皆さまや入院・外来患者さまのおかげで発足以降、お盆もお正月も大雪の日も暴風雨の日も決して中止になることなく継続してまいりましたが、コロナ禍により2年半にもわたり中止を余儀なくされていることに、残念無念でなりません。特に入院中の患者さま、退院して間もない患者さまには、断酒会員・OB会員の皆さまとの出会いの場を提供することができないことに申し訳ない気持ちでいっぱいです。1日も早く新型コロナウイルス感染が終息し、ひまわりホールで皆さまと一堂に会し院内断酒例会が開催できることを心から願っております。



北2病棟師長
眞柄弘美

院内例会45周年によせて

願っております。最後にになりましたが、皆さまのご健康と幸せをお祈り申し上げます。

林病院院内例会45周年おめでとうございます。断酒会員の皆様、林病院アルコール病棟OBの皆様、関係各位の皆様にご意を表します。私は林病院に就職して25年目になります。そして、早いもので、アルコール病棟の師長になって8年目になります。これまでいろいろな職場で働いてきましたが、気付けば、現北2病棟での勤務が一番長くなっているではありませんか。けれどもなぜだかそう長く感じられないのはなぜでしょうか。2015年4月、北2病棟師長として異動を命じられた時のことを今でも鮮明に覚えています。当初、アルコール依存症についての理解を深めるため、先生方や先輩方の話を聞いたり、依存症に関する本を読んだり、研修会に参加したりして自分なりに努力しましたが、やはり断酒会員の方やご家族の体験談を聞かせていただくことが何より学びとなると感じていました。しかし、その多くの学びを得る機会を2020年新型コロナウイルス感染症によって奪われてしまいました。林病院でも盆正月なく毎週水曜日に開催されてきた院内例会を2020年3月に中止せざるを得ない状況になりました。た。本心に悔しく残念な気持ちになりました。アルコール依存症の方やそのご家族にとつて同じ悩みを抱える仲間とのつながりは欠かせないものだと思います。しかし、コロナ禍では「3密を避ける」という全く逆のことが求められました。医療機関として、アルコール依存症治療のために入院してくる患者さんに十分な治療提供ができず、本心に申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、そのような中でも林病院OB会の皆さんを中心に知恵を出し合い、一人でも多くの人が断酒会につながることができるようご尽力下さっております。孤独は人間にとって最大の敵です。新型コロナウィルス感染症がいつ終息するか分かりませんが、ひとりでも多くの人が断酒会につながることができるよう、微力ではありますが、私たちが回復の手助けをしていきたいと思っています。

二十年の歩み

岡山東支部 松本ちどり

私が初めて林病院に入院したのは、48才の時、今は71才。すく長いこと林病院にはお世話になっていました。最初南病棟の二階、そして北病棟。いろいろな方達と出会い、別れがありました。その間に、主人が亡くなり、私ひとりです。どうしようかと思っていた時に、断酒会に入ってよかったと思いました。例会に行ってもへたに慰めるわけはないんですが、その場所に皆さんが居てくださるだけで、ここが私の居場所だと思ひ知らされました。友

人・知人に迷惑のかけっぱなし、主人が亡くなれば友人達も離れていき、私どうしよう。

そんな時に院内例会に行くと、スタッフの方や断酒会の仲間が声をかけて下さり、私の居場所はどこにしかない、いっそう例会に出席して主人に「また飲みよんか」と言われないように、酒に頼らないようにしてきました。朝の散歩だと犬を連れて自販機に行くんですが、自販機の前にいくと、私の顔を見ておすわりする犬にあやまつたり、本当に酒に溺れる私のことを見て育った息子達も51才と49才になりました。飲んでいない私を見て、家計の足しにお金を3人がそれぞれ、少しずつでも出してきています。

林病院に3回も入院して家族にも見放されていた私が、いままで生きてこられたのは、会と会員の皆様のおかげです。

林病院の前田先生、スタッフの皆様、これからもよろしく願います。感謝とありがとうございます。これからも頑張ります。

例会出席最優先



玉野支部
宮西英昭

酒は人生の友、嬉しい時、疲れた時いつも共にあった。55歳を過ぎた頃、成人病の検査で胃に初期の癌が見つかり切除した。

身体に異常があつて行った訳でなく、職場の仲間と軽い気持ちで行ったが初期の

癌が見つかった。手術をし五分の一残った胃は、食事をするとき冷や汗が出て苦しんで喉を通らなかつたが、酒は喉越しもスムーズに胃の中に入っていた。その頃から飲み方が異常になり、飲んで飲まれて飲まれて飲んでの日々。あつという間に、酒は私にとって毒水となった。空き腹の内臓にしみ込んでいく酒は、

体に大きな害を与えた。依存症が最短距離で進んでいったようだ。当時私も妻もアルコール依存症とは気付きませんでした。次第に夫婦関係は険悪となり妻は毎日説教です。

そんな時断酒会と出会い、地獄から救われたと喜んでいました。

暴言暴力もなく、本当に依存症なのか。ただ妻には自分の思いは黙っていた。言えは又説教が始まりそう。とりあえず例会廻りが始まった。妻と二人で毎日のように廻った。素直に廻れたのは頭の中がまだはつきりしてなく現実を理解し

たくなかつた。不安や不満は言葉に出さずとりあえず例会出席でした。が再飲酒してしまった。先輩が林病院への入院を勧めてくれた。劣等生の私は三回入院を繰り返した。三回目は朝から入院を勧めに仲間が3

人家に来てくれた。入院を拒否してのらりくらり行くとうとしない私ですが、やっと夕方林病院へ。そして又そこから入院のサインをしたのが夜八時、自分ながらあきれたが、粘り強く寄り添ってくれた仲間に変更して有難く感謝です。多くの気づきと多くの支えを頂いた。

おかげさまで現在があります。妻と二人で長きにわたり例会出席頑張れたことが断酒会員としての喜びです。ありがとうございました。



OB会レクリエーションを開催



OB会長
加賀純雄
(鴨方支部)

2022年5月21日11時より岡山市操山公園里山センターで林病院OB会総会・12時より林病院OB会レクリエーションを林病院OB会・OB25名の参加で開催しました。

コロナ禍での2年ぶりの開催で、BBQは出来ませんでした。懐かしいOBの方や林病院を退院してはじめて林病院OB会レクリエーションに参加される方もあり、入院当時の話や現在の断酒に繋がるまでの話等で、親睦を深める事で有意義な時間を共有する事が出来ました。

しかし、前田先生をはじめ林病院スタッフの参加がコロナ感染拡大により無かつた事は、仕方が無い事とは言え寂しく思う参加者は多かつたと思います。

一日も早く林病院・OBが参加して林病院OB会行事が出来る事を願うばかりです。

しかし今は、現状の中出来る事を一杯仲間とともに頑張っていきます。



入院から現在まで



岡山東支部
松本 昇

私は現在72歳です。

平成二十年の正月から母は町内の特別養護老人ホームに入居し、私は一人暮らしになりました。平成二十一年の正月過ぎから殆ど食事せず連続飲酒(II現実逃避の酒)の状態になりました。七月二日、私は家の中のトイレで立てなくなり、部屋を這いながらやつの思いで近所の友人に電話をし、

廃人同様の状態で林病院に運ばれました。大変しんどかつたのを覚えています。生活全般に介助が必要な状態でお盆過ぎまで中二病棟で、過ごさせていただき、北二病棟に移りました。アルコールプログラムを受け、アルコール依存症の恐ろしき、断酒の三本柱

特に一人暮らしの生活は孤立しないことが大切、等教えていただき、平成二十二年五月十二日に退院いたしました。その前五月二日に岡山県断酒新生会に入会させていただきました。現在が有り大変感謝しております。

OB会のコーナー

十月二十三日(日)十四時より林病院ひまわりホールに於いて(状況により会場変更あり)林病院断酒例会発足四十五周年記念集会を開催いたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一日も早く落ち着くことを祈ります。

日常生活でも基本的な感染対策を心掛けコロナにかからない様にお互いに気をつけましょう。ご寄稿いただきました皆様方、ありがとうございました。